



【先週のメッセージより】  
人をイエスに導く弟子になろう

ヨハネ 1 : 35~51より

●ヨハネ、アンデレ、シモン、ピリポ、  
ナタナエル

主イエスの最初の5人の弟子達の内、ヨハネとアンデレは、バプテスマのヨハネの弟子であったが、ヨハネから送り出されてイエスの弟子となった。



アンデレは兄のペテロを導き、イエスに直接導かれたピリポは友人のナタナエルを導いた。イエスに出会った弟子達は他の人々をもイエスに導くようになった。私達も既に弟子になった者たちからこの福音を伝えられたことを覚え、人をイエスの元に導く弟子となって行きたい。

●わたしに従ってきなさい イエスに従う理由はまず何より、神の小羊として私たちのために十字架上で命を投げ出してくださった方であるからであり、また神が立てられている真の王であられるからである。もしイエスに従わないなら、私たちはいったい何に従うのか？自分の不完全な悟りであろうか？あてにならない我々の感情、あるいは自分と同様の罪人でしかないまわりの人々の意見だろうか。イエスに従う人には「決して闇の中を歩むことなく、いのちの光を持つ」という約束が与えられている。 ■



【今週の英語】 "Adrianisms"より

**TWO WORDS THAT WILL CHANGE YOUR LIFE:**

**"YES LORD."** 人生を変革する二語は何か？「はい、主よ。」

【今週の暗唱聖句】 ヨハネ 2 : 11

イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。

ヨハネの福音書において「しるし」と「栄光」の両方の語はこの福音書を解く鍵の役割を果たす。ヨハネは他の福音書が記録していない奇跡を含め、それぞれの奇跡が明確にイエスがキリストであることの「しるし」となっていることを主張する。さらに父なる神の栄光、子なる神の栄光について繰り返し語り、我々も神の栄光の輝きのうちを歩むよう、導かれている現実がだんだん深められて行く。 ■

## 【祈るという奉仕をささげること】

●神の子どもたちは、放っておいても苦しい時や感謝したい時には祈ります。でもこれは状況に反応して祈っているに過ぎず、多くの場合、自分のことに関する祈りです。神はどのような祈りも喜ばれますが、こと教会に対しては更に積極的な「祈りの戦士」「祈りの奉仕者」を求めておいでです。神は教会に「地の塩・世の光」としての務めを与えておられますが、神の国とその義の前進をもたらす車の両輪は片方が「みことばの宣教」であり、もう片方が「とりなしの祈り」です。まっすぐ進むには両方が不可欠なのです。

●さて「とりなしの祈り」は人のために祈る祈りです。神を知らない家族、親族、友人に対する裁きが引き延ばされ、救いの機会と応答する心が与えられるよう祈る祈りであり、子供たちが神を恐れ、神に用いられる器となるよう、病いで苦しむ人のためにいやされるよう、首相や大統領が神を恐れ、正しい政治を行なうよう祈る祈りです。

●ではなぜ、神は「とりなし」を何よりも求められるのでしょうか。神は神を求めない人々すら救いたいと願っておられますが、彼らの自由意志をも尊重しなければなりません。そこに「神の子」という特権を持った者が、その人に代わって願うなら、神はその「神の子」ゆえに行動

を起すことがおできになるのです。

このことを証明する最も明確な例は「父よ。彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか自分でわからないのです。」と祈った十字架上のイエスのとりなしにより、イエスに反対していた多くの祭司やパリサイ人たちにすら救いが及び、世界中の人々に救いが及んだことです。

●今一つ大切な理由は、とりなしの祈りが純粋な隣人愛の形だからです。神は私たちがイエスに倣い、「神と人とを愛する力」において成長することを求めていらっしゃるからです。とりなす人は、自分の思いと自分の時間をとりなす相手の人のためにささげているのであり、隣人愛を実行しているのです。

●最後に質問です。もしあなたが教会を攻撃しようとしているサタンだったとして、聖書知識は豊富だけれども高ぶりゆえに祈らない人と、聖書知識は僅かかも知れないけれど純粋に神に祈り、熱心にとりなすクリスチャンのどちらを恐れるでしょうか。グリニッチの教会が神の敵たちにとり、脅威となるよう求めて行こうではありませんか。

●教会ではこれから水曜日の祈禱会の他に、日曜礼拝前に祈禱会を持つことにしました。時間は9時15分から45分までです。神に喜ばれる奉仕として是非、積極的にご参加下さい。■

